



「住友林業グループ 中期経営計画2018」 の進捗について

2017年5月15日 住友林業株式会社

代表取締役 社長 市川 晃

1. 事業環境の認識	2ページ
2. 中期経営計画の概略	3ページ
3. 中期経営計画の進捗	4ページ
4. 中期経営計画達成のための 取り組み	6ページ
5. 投資の状況	11ページ
6. 株主還元	12ページ

<国内>

<短期的な事業環境>

緩やかな景気回復基調にあるものの、個人消費を中心に力強さを欠く状況が続いている。消費税増税延期の影響もあり、国内住宅市場も停滞。

<中長期的な事業環境予測>

人口減少に伴う少子高齢化社会の進行で、成熟社会としての新たな市場が生まれる。

<海外>

<短期的な事業環境>

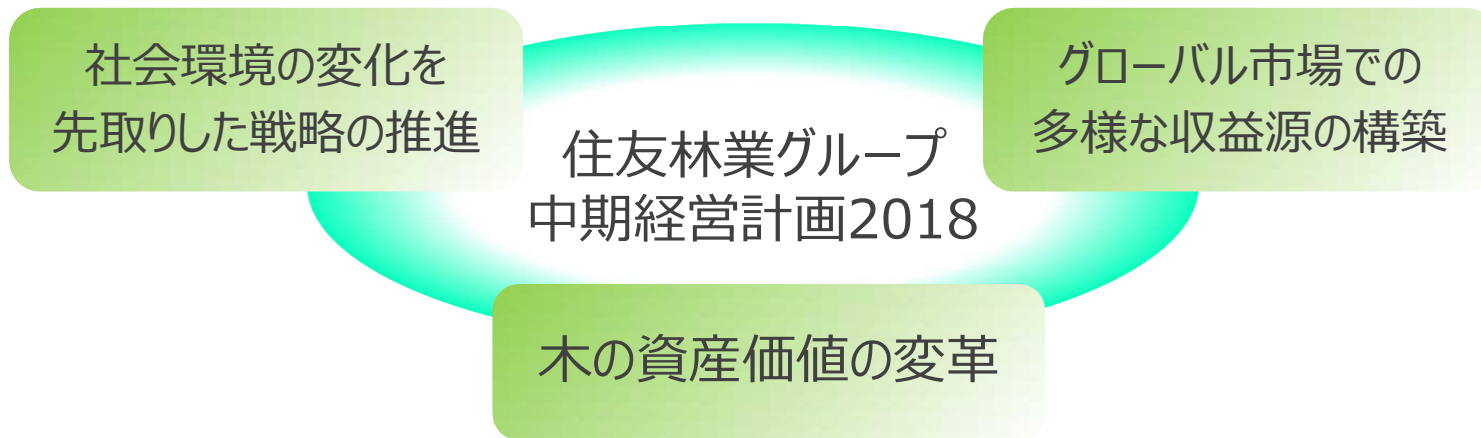
米国やヨーロッパの政治不安に朝鮮半島の緊張の高まりが加わり、その影響で経済情勢も混沌としており、先行きの不透明感が増している。

<中長期的な事業環境予測>

新興国を中心に中産階級の台頭など、成長市場ならではの変化が起きる。

変化を的確に捉えた戦略を実行し、
当社グループの力を最大限に発揮していく。

3年間で、持続的成長のための事業基盤をより強固なものとし、
 「**新たなステージへ向けた変革の推進**」を実行する。



	16/3期 実績 (※)	19/3期 計画
売上高	1兆405億円	1兆1,700億円
経常利益	305億円	550億円
親会社株主に帰属する当期純利益	97億円	315億円
ROE (自己資本利益率)	4.0%	10%以上

※策定時

17/3期実績 全社業績は堅調に推移。最高益を更新するも、住宅受注が低迷する等、課題も残った。

18/3期予想 全体売上高、当期純利益は中期経営計画の目標を達成。

※数理差異を除く

単位：億円

(連結)	16/3期実績	17/3期実績	前期差	18/3期予想	前期差	19/3期計画	前期差
売上高	10,405	11,134	+728	12,410	+1,276	11,700	△710
経常利益	420 (305)	529 (578)	+108 (+273)	525	△4	550	+25
親会社株主に 帰属する 当期純利益	174 (97)	311 (345)	+136 (+248)	330		315	△15
ROE	7.1% (4.0%)	12.0% (13.3%)	+4.9pt (+9.3pt)	11.5%	-	10.0% 以上	-

※16/3期及び17/3期の()内は決算ベース

19/3期の中期経営計画目標は次のステージに向けた最低ラインとして、現段階では変更しない。

中期経営計画の進捗(セグメント別)

5

※数値差異を除く

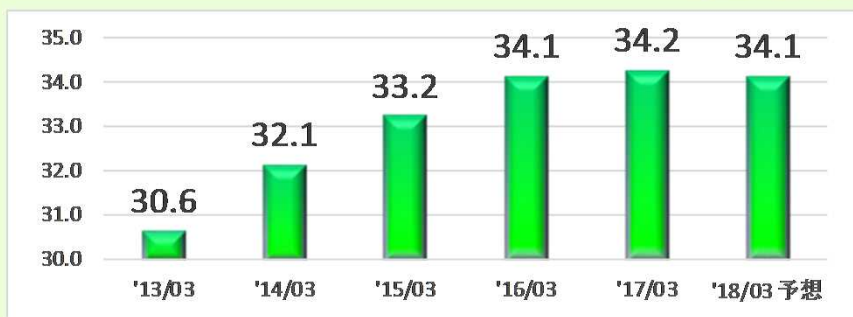
単位：億円

(連結)	16/3期実績	17/3期実績	前期差	18/3期予想	前期差	19/3期計画	前期差
売上高	10,405	11,134	+728	12,410	+1,276	11,700	△710
木材建材	4,270	4,244	△25	4,400	+156	4,200	△200
住宅	4,546	4,663	+117	4,750	+87	4,850	+100
海外	1,879	2,479	+600	3,460	+981	2,940	△520
その他	169	230	+61	360	+130	398	+38
調整	△458	△482	△24	△560	△78	△688	△128
経常利益	420 (305)	529 (578)	+108 (+273)	525	△4	550	+25
木材建材	34	45	+11	50	+5	45	△5
住宅	315	323	+8	280	△43	330	+50
海外	131	193	+62	220	+27	214	△6
その他	△10	22	+32	25	+3	36	+11
調整	△49 (△164)	△55 (△5)	△6 (+159)	△50	+5	△75	△25

※16/3期及び17/3期の()内は決算ベース

戸建注文住宅の1棟当たり受注単価の推移

(単位：百万円)



戸建注文住宅の1棟当たり完工単価の推移

(単位：百万円)



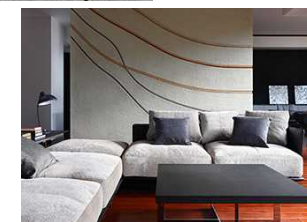
駒沢第一展示場
(邸宅設計)



立川第一展示場
(邸宅設計)

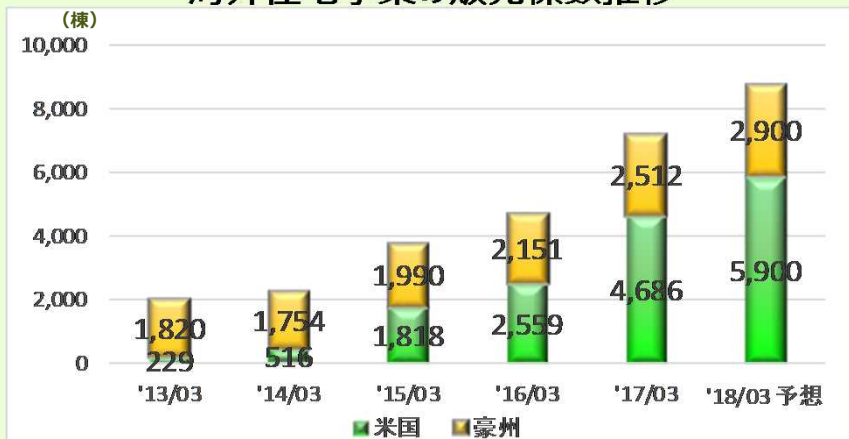


八事展示場
(邸宅設計)

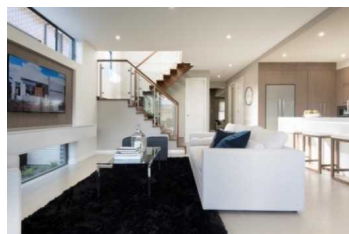


高付加価値化の推進により、収益性は高まる。
一方で受注は低調に推移し、提案力強化等による巻き返しが今期の課題。

海外住宅事業の販売棟数推移



Edge Homesグループ (米国)
2017年2月持分取得



Wisdomグループ (豪州)
2016年7月持分取得

各社のオーガニックグロースを推進すると同時にガバナンスも強化。
賃貸住宅事業や緑化事業など周辺事業にも積極的に取り組む。

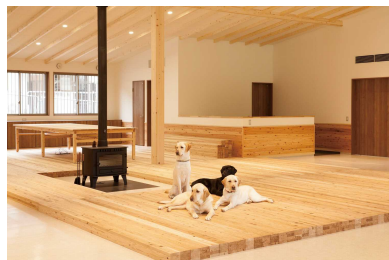
国内外で木材や森林の価値が見直されており、当社グループには追い風。



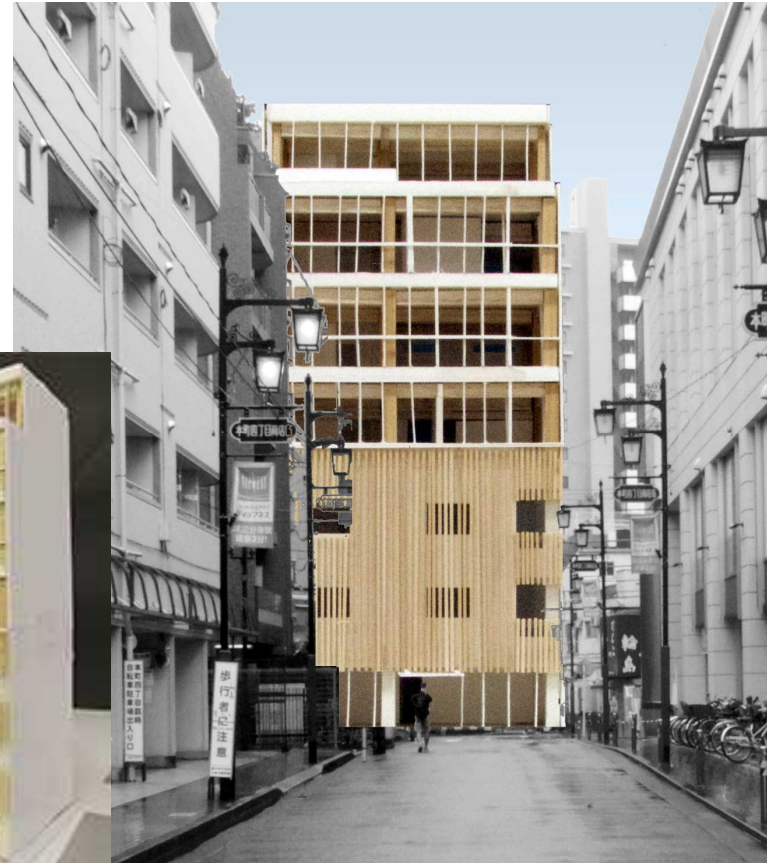
宮城県東松島市宮野森小学校



SETSUNA



盲導犬施設



国分寺フレーバーライフ本社ビル

木化事業は、事業規模拡大のため新たな案件ルートの開拓と
施工体制の整備を推進。



紋別バイオマス発電所



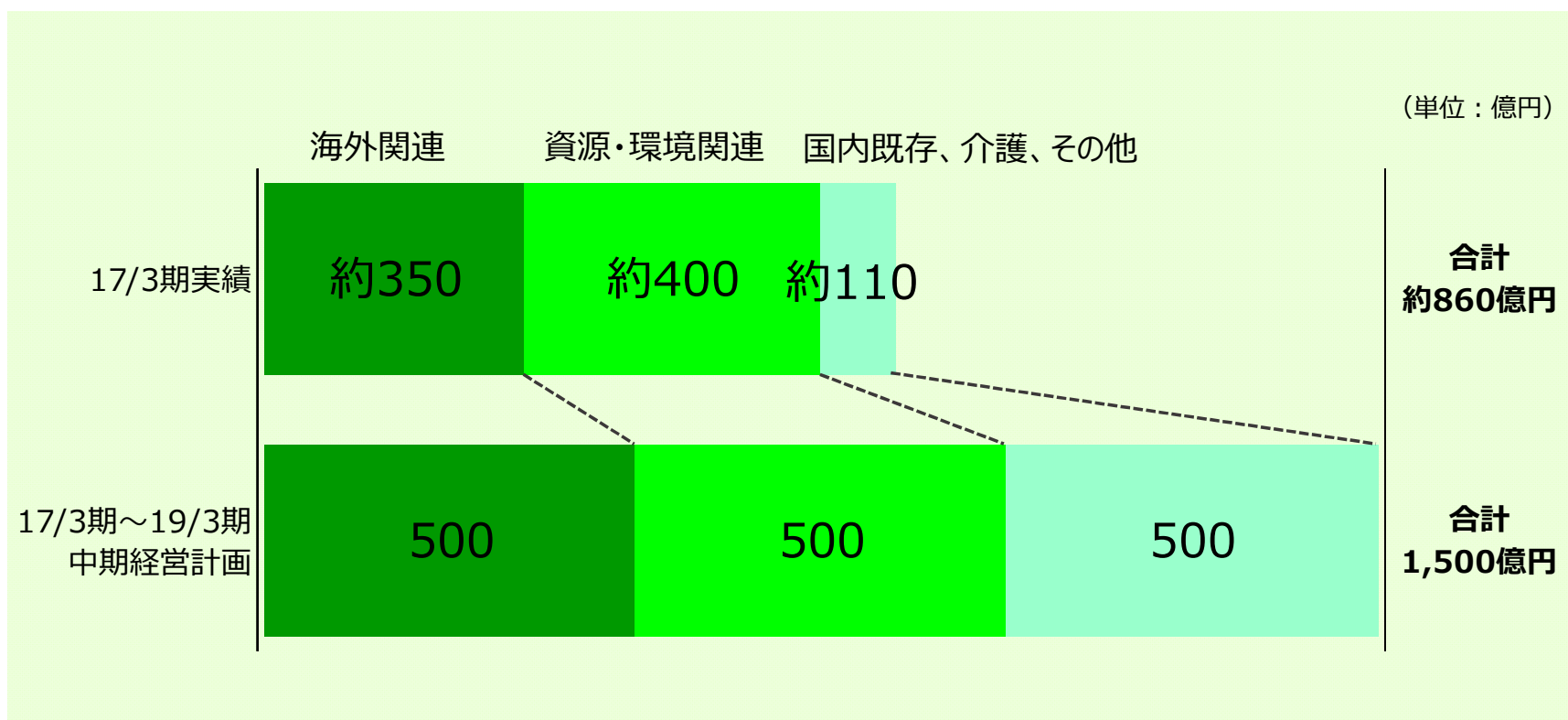
ニュージーランド山林



Nelson Pine Industries Ltd.

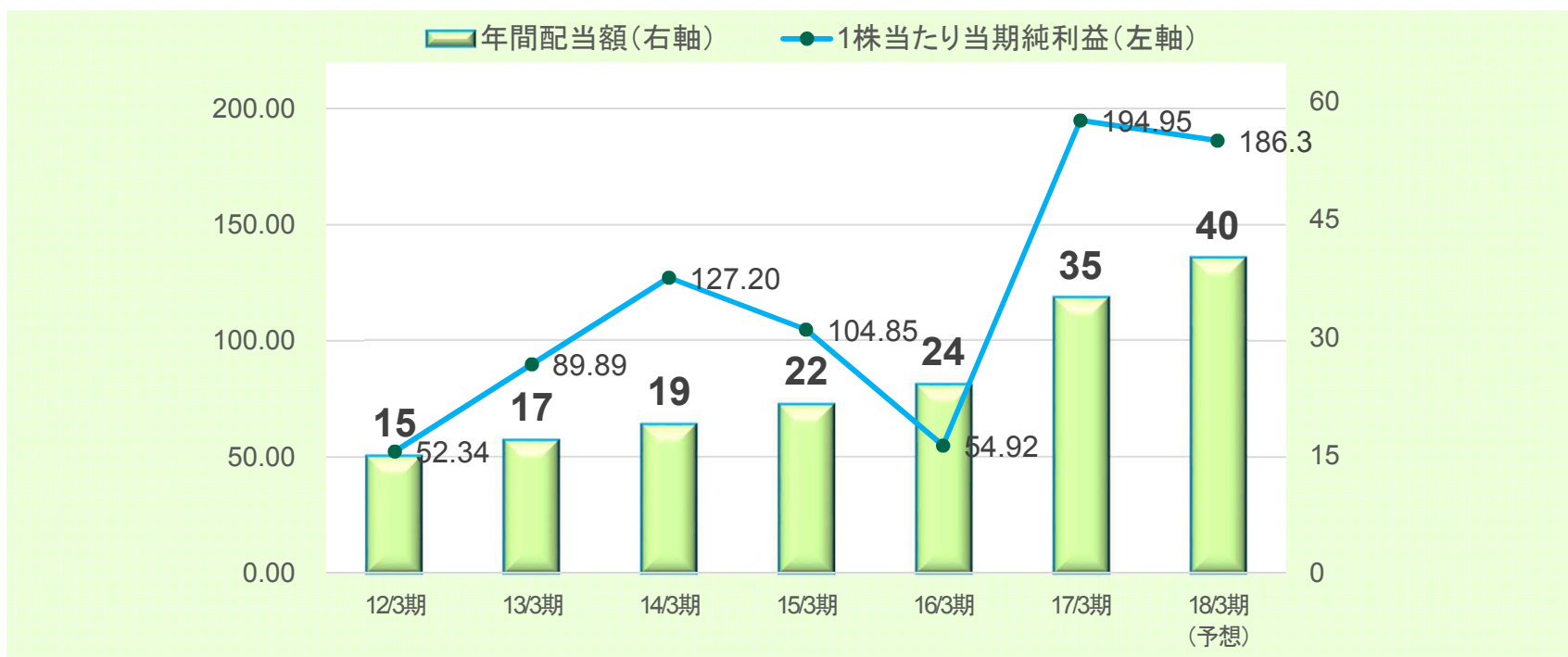
国内外での木材・森林の需要の高まりを捉え、事業領域を拡大するとともに、サステナブルな社会の実現に貢献していく。


17/3期は中期経営計画で掲げた3カ年合計1,500億円のうち約860億円を投資。
 着実に収益に繋げるとともに、成長投資は継続。



当社では継続的かつ安定的に配当を行うことを基本方針としております。

2017年3月期の期末配当については、期初予想の15円から5円増配。今期予想も加えると、6期連続での増配となる予定。





木と生きる幸福

住友林業グループ

ご清聴ありがとうございました。